

# 第17回模擬国連会議関西大会 高校生会議 会議報告書

Annual Conference Report

High School Conference

The 17<sup>th</sup> Kansai Model United Nations Conferences



# 目次

- ご挨拶 . . . . . 2
- 第17回模擬国連会議関西大会概要 . . . . . 4
- 高校生会議概要 . . . . . 5
  - 準備日程・当日日程 . . . . . 6
  - 会議概要・目的 . . . . . 7
  - 会議準備 . . . . . 8
    - 勉強会・議題説明書・タスク
  - 会議経過 . . . . . 11
  - 成果 . . . . . 13
  - 会議総括・課題 . . . . . 14
- 後書き . . . . . 15
- 模擬国連について . . . . . 17
  - 模擬国連とは
  - 模擬国連会議とその有用性
  - 日本模擬国連組織図
  - 日本模擬国連の理念
- 運営者一覧 . . . . . 19

# ご挨拶

## 中村有沙

### 平成29年度日本模擬国連代表

日本模擬国連関西大会は近年、その開催規模を拡大しつつございます。

現在日本模擬国連では、高校生および高校関係者各位へのサポートや、高校模擬国連大会への協力を積極的に取り組んでおり、今後も高校模擬国連への貢献を充実させて参ります。

高校模擬国連は現状、**Global Classroom**主催全国大会および世界大会派遣、学校間高校生大会、そして学校単位での模擬国連活動といった形式が見られ、なかでも学校間での高校生大会や各学校単位での活動は、高等教育における新たな試みとして年々その数が増加しております。日本模擬国連は大学生による学生団体ではあるものの、その蓄積されたノウハウや知的財産をそのような生まれたての高校模擬国連活動へのサポートに大いに役立てているところでございます。

一方で、大学模擬国連の会議の運びは、高校模擬国連のそれとは少し異なるという話もございます。しかし、それはむしろ当然のことであると言えます。大学生は高校生に比べて研究に打ち込めるだけの時間と猶予をもっている、したがって彼らによって紡がれる議論・交渉や成果文書は、それだけの出来栄を保證します。

模擬国連に携わる人間にとって「違う」ことは挑戦なのであり、自分自身の新たな可能性と向き合うチャンスと変わります。そのような、完成度の高い大学模擬国連の産物を高校生に直接ご提供できる機会はそう多いものではないので、「高校生による高校生のための会議」からワンランク上を目指したい、周りの高校生に差をつけたいといった意欲ある高校生たちが「大学生による高校生のための会議」にご参加いただければ、各人必ず自らの成長材料を発見できることでしょう。

日本模擬国連は今後も、高校生のための会議を盛り上げ、参加された高校生が大学生となっても模擬国連を継続していただけるような環境づくりを目指して参ります。つきましては関係者各位、今期大会を終えましても日本模擬国連に変わらぬご懇意を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

# ご挨拶

## 奥山智司

事務総長・運営代表

### 第17回模擬国連会議関西大会

私たち模擬国連会議関西大会運営事務局は、「模擬国連活動の普及と発展」と「人材の育成」の二軸の下で、過去16年にわたり全国各地250名以上の参加者を対象に模擬国連会議を開催してまいりました。当初は主に大学生が参加者の中心でありましたが、近年は従来会議へのご参加に加え、高校生対象の体験会議や見学ツアー等を企画し、ご好評をいただくなど、全国各地より高校生や教員の方々のご参加をいただいております。

このような大会へのご理解と関心、ご参加の高まりを受け、このたび本年8月に開催致します第17回模擬国連会議関西大会におきまして、高校生を対象とした模擬国連会議を新たに企画、開催する運びとなりました。本会議では、大学生が作成する会議ならではの堅牢な会議設計と手厚い会議準備へのサポートをご用意し、模擬国連会議の機会としては勿論、国際問題への知見を深め、自らの頭で考え行動することのできる人材への成長の機会をご提供する予定です。

関西大会運営事務局は、これからも高校模擬国連活動の一層の普及と発展、また活動を通じての人材の育成に寄与してまいります。

今後とも本大会および高校生会議の開催に、ご理解とご支援を賜りますようお願いを申し上げます。



# 第17回模擬国連会議関西大会概要

名称 (英語名)	第17回模擬国連会議関西大会 The 17th Kansai Model United Nations Conferences	
	大学生会議	高校生会議
日程	2017年8月28日(月)～30日(水)	2017年8月28日(月)29日(火)
場所	神戸国際会議場/神戸ポートピアホテル	アリストンホテル神戸
参加費	26000円 (宿泊費込、朝食つき)	3000円 (宿泊費は含まない。 宿泊を希望する場合は6500円)
参加者数	300名(予定) ※運営スタッフを含む	
主催	日本模擬国連	
運営責任	第17回模擬国連会議関西大会事務局	



# 高校生会議・概要

## 議題：万人のための持続可能なエネルギー SDGs Goal 7 実現へ

Sustainable Energy For All

~How to achieve Goal 7 of the Sustainable Development Goals~

議場	国連開発計画(UNDP)
募集人数	30名程度 (高校生のみ)
会議監督	佐伯 壮一郎 (大阪大学医学部医学科2年)
副会議監督	長岡 幸佑 (同志社大学グローバル地域文化学部4年)
議長	伊藤 園華 (同志社大学法学部法律学科4年)
秘書官	埋橋 光 (同志社大学政策学部政策学科2年)
報道官	徳 ひまわり (同志社大学法学部政治学科2年)
使用言語 (公式発言/非公式発言/公式文書)	英語/日本語/英語
時代設定/会議設定	2015年5月15日 Sustainable Energy for All Forum 2015の準備会合を 想定した仮想会議。

会議コンセプト

# 高校生よ、挑め！世界の最先端へ。

# 準備日程・当日日程

## 【準備日程】

5月27日(土)	第1次募集開始
6月11日(日)	第1次募集〆切
6月24日(土)	第2次募集開始
7月1日(土)	第2次募集〆切
7月15日(土)	会議勉強会～関東～
7月16日(日)	会議勉強会～関西～
8月27日(日)	大会 前泊
8月28日(月)～8月29日(火)	大会 当日
8月31日(木)	大会 後泊

## 【当日日程】

8/28(月)	
12:00～	受付開始
14:00～18:00	1 <sup>st</sup> meeting
18:00～19:00	夕食
19:00～20:30	2 <sup>nd</sup> meeting
8/29(火)	
7:00～	朝食(宿泊者)
9:30～12:00	3 <sup>rd</sup> meeting
12:00～13:00	昼食
13:00～18:00	4 <sup>th</sup> meeting
18:00～19:30	講評

# 会議概要・目的

**時**、2015年5月15日。世界中において、「エネルギー」はなくてはならないものとなりました。しかし、世の中にはエネルギーを享受できていない人々も数多く存在していることもまた事実です。このような状況を打破するため、2015年9月に採択される持続可能な開発目標[Sustainable Development Goals (SDGs)]のGoal 7において「万人の安全かつ持続可能な近代エネルギーへのアクセスの保障」が策定されようとしていました。

エネルギー問題は、開発、金融、技術発展、環境問題など近現代の社会の特徴が凝縮された議題です。2030年までに世界が持続可能な発展を遂げ続けるためのエネルギー開発政策を、SDGs採択を控える今、政府レベルの視点から、参加者の高校生たちに評価、協議していただきました。翌日には、世界の様々なステークホルダーが年に一度だけ会するSustainable Energy for All Forumの開催が控えているという設定の下、その事前交渉として、会議に参加する大使たちには次につながる満足のゆく政策を立案し、議論を交わしていただきました。

**本**会議の目的は、まず第一に、参加していただく高校生の皆様に、模擬国連の楽しさを体感できる会議を提供することでした。それを実感しながら、担当国の視点に立ってロジカルかつクリエイティブな政策立案をし、それを密度の濃い協議のもとで検討していけるようサポートをフロントが誘導いたしました。会議を通じて交渉や公式発言を行い、決議案を執筆していくことを通じて、今までにはなかった世界を多義的に見る視点を養う機会にしようと考えておりました。

**日**本では、実に大半の児童が教育を受けることが出来、小中高とその教育は1本線につながっています。しかし、模擬国連で養われるこれら多面的な能力は全く別種の能力であり、同時に世界で戦うには必須の能力となります。勉強会や会議への準備ではそのような「頭の使い方」を参加者に伝授することを念頭に置きました。

世界を見る目が変われば、自らを見つめ直す目も自ずと変わるだろうと考えられます。この会議を通じて、同世代の価値観や世界情勢などに主体的に触れ、自らの人間観、価値観の構築に役立てて欲しいと考えました。

さらに、SDGsが最終局面を迎える2020年代後半は、本会議に参加する高校生たちが社会人としてそれなりのポストに就き、活躍し始める頃だと思えます。そのときに、2017年の夏、神戸にて議論した内容を思い出し、社会を別の側面から観察し、更なる社会貢献へと会議参加者が、世界レベルの一步を踏み出せるキッカケとなることを期待いたしました。

# 会議準備

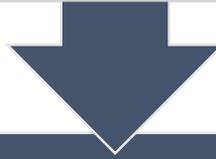
## 《勉強会》

関西	関東
Good Find Lounge @KYOTO 阪急京都線「烏丸駅」/地下鉄 烏丸線「四条駅」より徒歩3分	Good Find Lounge @TOKYO 東京メトロ銀座線「外苑前」駅 より徒歩3分

勉強会への参加を希望した参加者には、勉強会を実施いたしました。勉強会では大きく分けて3つの取り組みを試みました。

## ディスカッショントレーニング

ディスカッショントレーニングでは、「相手に自分が伝えたいことを伝える」ことの難しさを、参加者にはじめに実感していただきました。アイスブレイクを兼ねたディスカッションでは、定められたルールの中で自分で決めたキーワードを伝えるというディスカッションを行いました。フロントからは、「伝える」必要がある際にどのようなことに注意をすべきか、という点について具体的に解説いたしました。



## 議題解説

議題解説を、事前に配布された議題概説書に基づき行いました。議題の内容を知ることは模擬国連において欠かせない準備です。ここでは、会議監督が参加者に求めるリサーチのクオリティ、そしてタスクで押さえるべきポイントについて解説いたしました。



## 思考力訓練

「学校では学べない思考力の育成」というテーマに基づき、思考力訓練を行いました。参加者には、簡単な議論のセッションから、「無意識な思考の恐ろしさ」を体感していただきました。また、それに基づき、「どのような視点を持って社会を見つめるべきか」という講義を、対話形式を用いて副会議監督を中心に実施いたしました。また、「インプットとは如何に簡単な物か」を実感していただくために、「アウトプット訓練」も実施いたしました。

勉強会の始まりにはこぼれていた笑みも徐々に少なくなり、最後の思考力訓練では参加者の目は一段と鋭くなりました。それでも参加者の皆様は、アタマを使った後に残る心地よい疲労感と共に、会議に向けた準備のためのヒントを得たようでした。

# 会議準備

## 《議題概説書》

議題概説書(Background Guide, 以下BG)では、議題のみならず、国際社会における「持続可能性」と「開発」という概念がどのような変遷を辿ってきたのか、を主に解説いたしました。それらを考察するに当たり重要な設問をKey Questionsとして設定し、後日配布したタスクではこれらの設問を中心に考えを深めてもらいました。また、大きな論点を2つ設定し、この論点に基づいて参加者がSDGs、そしてSustainable Energy for Allという概念への更なる理解を促す方針をとりました。本会議における論点は以下の2つでした。

### 論点1

エネルギー開発における「水平的平等」と「垂直的平等」の統一見解の策定

### 論点2

持続可能なエネルギーの開発を行うための行動指針の策定

論点1では「水平的平等」「垂直的平等」という2つの新しい概念を導入し、抽象的な概念を理解し、論理的な議論を行うことを参加者に求めました。

一方で、論点2では、行動指針の策定として、具体的にどのような政策を世界がとるべきか、といったクリエイティブな議論を求めました。

このような意味で、本会議では、論理的思考（水平思考）、そして創造的思考（垂直思考）という双方の思考力を鍛えながら、国際問題を洞察する力を養いました。また、読解力、リサーチ能力を向上させるため、簡潔かつ客観的な文体でのBG執筆を行いました。



勉強会にて。  
アウトプット区訓練を行う  
副会議監督長岡の話に熱心に聞き入る参加者たち。

# 会議準備

## 《タスク》

タスクでは、大きく3点のテーマを問いました。1点目が「議題概説書の理解」、2点目が「模擬国連における最低限必要なリサーチ」、そして3点目が「政策立案」でした。

「議題概説書の理解」をはかる設問としては、BGに記載したKey Questionsを中心に、持続可能な開発という概念について考察を深めてもらいました。特に、「持続可能な開発目標(SDGs)」の前身に当たる「ミレニアム開発目標(MDGs)」を折り合いに出しながら、SDGsとMDGsそれぞれの特徴を考察しました。

「模擬国連における最低限必要なリサーチ能力」としては、担当国の内情、そして議題に関する世界の実情について調べてもらいました。このようなステップは、模擬国連において大使を務めるに当たり必須なステップであると捉え、実際の会議を想定しながら、会議に必要な知識をつけていただきました。

「政策立案」では、勉強会で身につけたアウトプット能力を活かすべく、政策立案に関する大論述に取り組んでいただきました。また、政策を立案する段階から、自分の立案に対して自ら批判し、さらに考察を深めることで、三次元的な政策立案ができるように誘導いたしました。

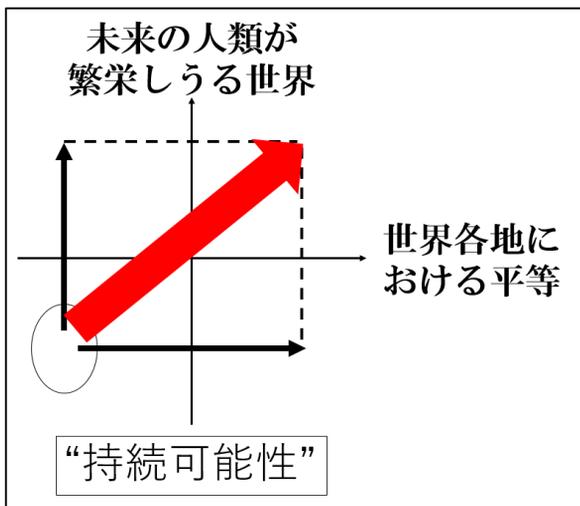
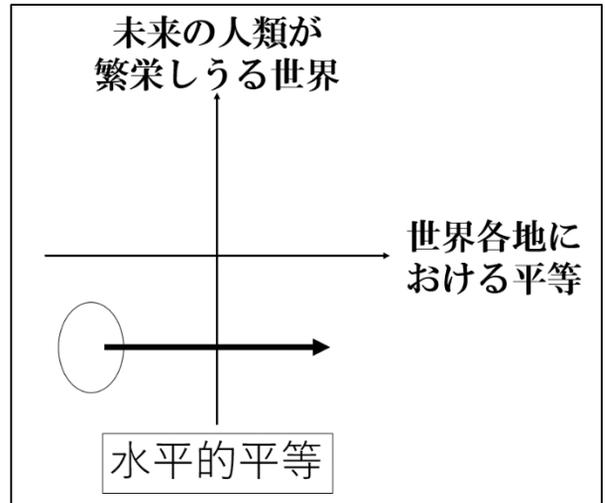
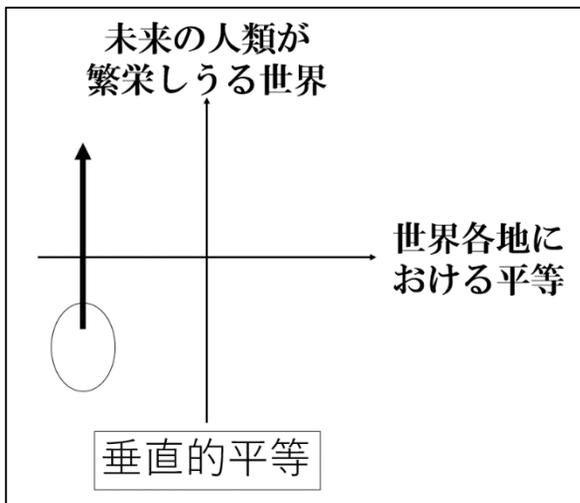
これらの設問を解いていただき、フロントがフィードバックをつけて返却いたしました。また、その際に、リサーチとして参考になるであろう参考文献なども示すことで、模範解答を与えるのではなく、自ら考え答えを導き出すことを求めました。

これらの設問を通じて、リサーチとしては完璧になる様な出題を試みました。すなわち、タスクが完璧にできていれば、それ以上のリサーチは必要がない、といったクオリティの出題を致しました。全ての設問に解答しきれなかった参加者も散見されましたが、今後取り組む会議ではこのタスクを参照にしながら、自らのリサーチに抜け漏れがないかを確認するベンチマークとして活用していただければ、と思っております。

# 会議経過

すべての参加者のうち約半数が模擬国連会議への参加が初めてであるという状況の中、ほとんどの参加者が積極的に発言を行うという極めて画期的な開始を会議は呈しました。初めは模擬国連独特のルールがわかっていなかった参加者も、何度か経験を持つ参加者に引っ張られるように、徐々に慣れてくると自らの政策を意気揚々と議場に対し説明するようになりました。

会議の設計といたしまして、まず、「SDGsにおけるエネルギー開発」というテーマにおいて、「水平的平等」「垂直的平等」(ともに造語)という概念を用いながら、どのような指針に基づいてエネルギー開発を行うべきか、という抽象的な議論を行っていただきました。抽象的な議論にあまり慣れていない参加者も多く、どのような表現や言葉遣いを用いるべきか戸惑っている参加者も見受けられました。しかし、最終的にはフロントの援助を必要とせず、抽象的な概念に関する一定の合意がなされ、成果文書に記載がなされました。



左上から時計回りに、

- ・ 垂直的平等(Lateral Equality)
  - ・ 水平的平等(Parallel Equality)
  - ・ 持続可能性(Sustainability)
- を図示化した図。

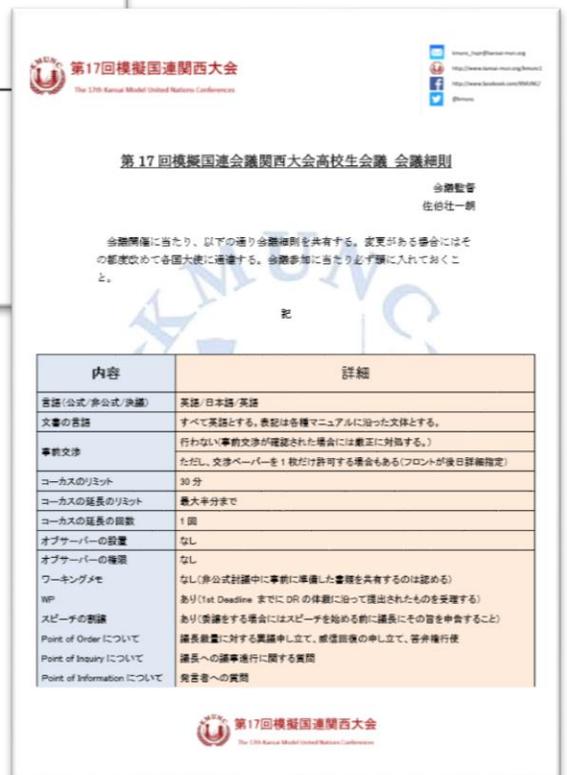
・ 持続可能佐伯壮一郎. “第17回模擬国連会議 関西大会高校生会議 Background Guide”より抜粋

# 会議経過

抽象的な議論が終わったのち、その抽象概念をどのように「具体化」するか、という議論がなされました。本議論では、各国大使が持ち寄った政策を共有し、合意が得られたものから決議案として記載していく、という方針が取られ、2つの決議案が提出されました。ただ、この段階での決議案のクオリティは決して高いものではなく、決議案の質をあげ、なおかつ決議としての体裁に近づくよう、フロント側から、「論理構成」「文体」という2点についての修正を誘導いたしました。決議案の修正に一部大使が奔走する中、この2本の決議案をコンバインして一本化するという交渉がなされましたが、時間内に合意は得られず、決議案が2本のまま、投票にかけられることとなりました。投票においても、それぞれの決議案が、当初目指していたコンセンサス採択で可決されることはなく、双方ともに点呼式投票にて賛成多数にて可決されました。



上図  
採択された決議の一部



右図  
会議に先立ち配布された会議細則の冒頭部

# 成果

本会議において、大きなハードルは2つあったかと思います。1つは、「SDGsという概念を理解する」こと、もう1つは、「抽象的な議論と具体的な案件を嗅ぎ分け、それぞれに対応した議論を行う」ことでした。

これに対し、参加者は非常にエレガントに対応してくれました。「持続可能性」という概念の正確な理解なしには不可能であった第1論点である「水平的平等」「垂直的平等」という概念的議論においてはロジカルな論理的思考力を発揮し、また、第2論点として設定した持続可能なエネルギー政策立案では、具体的でクリエイティブな政策立案が見られました。

その結果として、会議を通じて、SDGsにおいて、世界がどのようにエネルギー開発を推し進めるべきかという議論がなされ、成果文書を通じてその方針が全世界に示されました。具体的な取り組みを求める成果文書が採択されたことで、専門家たちの議論がどのようなことを中心に議論がなされるべきかが示されたという点では、本会議の大きな目的は果たされたといってもよいでしょう。

初心者が半数を占める中でここまでも積極的な議論が行われたことは、ひとえに参加者の事前準備の成果であると考えます。会議の準備としてリサーチを誘導したタスクでは、ほとんどの参加者が最低1回は提出をし、フロントによるコメントを受けながらリサーチを進めていました。設問を通じて模擬国連ではどのようなことを調べたうえで会議に臨むべきか、また、情報をどのように解釈し、どのような考察を事前に加えるべきか、といった点が一定の理解を得られたことで、具体的な交渉が会議中も積極的に進んだと考えられます。その点では、すべての参加者が各々、多方面における成長を遂げ、称賛に値する活躍を示してくれました。

# 会議総括・課題

会議の質を講評するのであれば、本会議の質は、高校模擬国連の会議としては極めて高いものであったと考えております。高校模擬国連では長期的な準備期間を取ることが難しい場合が多いですが、本会議では2か月余りの準備期間、そしてその準備を誘導するタスクと議題概説書により、長期間にわたる質の高い準備ができていたからであると考えております。

しかしながら、大学生を主体とする会議と比較をすれば、本会議のレベルは決して高いものであったとはいえないと思います。大使として会議に挑むに当たり、発現ではどのようなことに気を遣うべきか。国際情勢をどのように踏まえねばならないか。自分の意見と国としての意見をしっかり分けること。特にこのような、いわば模擬国連に挑むあたりの「根本的なスタンス」というものに関しては、極めて改善の余地があると捉えております。

ただ、本会議においては、そのような国連の「模擬」といった部分よりも、「頭を使う」こと、そして、「協調を目指す会議行動を実現する」ことを中心に考えてもらうことを優先したため、その軌道修正を加えることはしませんでした。このような点はおそらく知識並びに経験に基づいて構築されるものであり、それをこの時期に高校生に求めるのはいくらか酷なのではないか、とフロントとして判断いたしました。

そのような意味では、2つの決議案が出て、双方がコンセンサスで採択されなかったのは、ある意味好意的に認識することも可能かと思えます。一部の大使が頭を使ってくれたという現れとして捉えれば、会議は成功したと言えるのではないかと捉えているためです。

また、このような政策を提言していきながら議論を構築する会議を通じて、参加者も模擬国連の楽しさを理解していただけたのではないかと考えております。リサーチなどといった事前準備や、会議において交渉を行っている間など、苦しい思いをどこかでした参加者も多かったでしょうが、それを乗り越えた先の達成感や自らが成長したという実感が、模擬国連の「楽しさ」や「充実度」に寄与しているのではないかと。会議を運営したフロントとして、会議を設計した会議監督として、また、高校模擬国連をこよなく愛し、普及を試みる個人として、この事実を改めて実感できる機会となりました。このような意味で、参加者だけでなく、会議運営陣としても、本会議は「成功」したのではないかと捉えております。

# 後書き

○埋橋光 第17回模擬国連会議関西大会高校生会議 秘書官兼報道官  
第17回模擬国連会議関西大会運営事務局 渉外担当

第17回模擬国連会議関西大会における今回の高校生会議は、コンセンサスという議題の性質もあったかもしれませんが、本来の教育ツールとしての模擬国連の姿を表していたのではないかと考えております。

高校生にとって、本大会の先にあるのは模擬国連を使った「競争の場」かもしれませんが、しかし、本大会における高校生会議はあくまでも競争ではなく、学ぶための会議でした。全ての国の大使が、最後まで、自分の考えた国益を達成するために会議で行動していたからこそ、交渉の方法、戦略や国益、国際益を熟考することを学ぶことができたのでしょう。海外の大会に行って実績がほしいために会議をする高校生の個人ではなく、全ての参加者が一国の大使であったと、秘書官として大会を参加者の皆さんを見ていた者として感銘を受けました。

教育ツールとしての模擬国連を競争に使うことは、大学の選考で偏差値を用いて選考することに批判が為される「世の中（そもそも偏差値を作ったのも”大人”で、それを批判しているのも”大人”です）」において逆行していると考えられます。同時に、競争ではなく、本来の模擬国連が、見出された価値のもとで行われる場が必要であり、今回の会議はまさにその価値に見合ったものであったと感じています。

# 後書き

○佐伯壮一郎 大阪大学医学部医学科  
第17回模擬国連会議関西大会高校生会議 会議監督  
第17回模擬国連会議関西大会運営事務局 高校広報担当  
第9期高校模擬国連日本代表団

高校生会議を模擬国連会議関西大会に設置するのは初めての試みでした。そして、この会議は、大学生が高校生に対し、数か月にわたる「タスク」と呼ばれる事前課題、そして2日間にわたる会議とその講評を通じて積極的に参加者を育成する名目にて実施された、日本で初めての会議でした。

このような会議を設計するに至ったのは、本大会の「模擬国連を通じて人材育成を行う」という土壌と、高校模擬国連に対する需要の増加がマッチしたためでした。数多くの高校生が全国津々浦々、模擬国連に参加してみたいと思っている状況が現在の日本にはあります。また、模擬国連自体が教育プログラムとして極めて高い評価を中等、高等教育においてなされるようになってまいりました。しかしながら、その需要にこたえるだけの指導者や機会に恵まれない中高生が、特に地方には数多く存在しております。そのような意欲ある参加者に対する受け皿となり、さらに指導を行うことができる場として、大学生が実施する模擬国連の大会は極めて有用な機会でした。

本会議を実際に実施してみることで、高校生に対し、大学生が指導を行うことで一定の成果が収められたのではないかと考えております。しかしながら、運営面、特に資金面において、主催側の課題が多く残ることとなりました。

高校模擬国連は、会議参加者と主催者だけで成り立っているわけではありません。双方を支える強固な土台、特に、参加者の保護者や指導教員の皆様のご支援があって、初めて実現できるものであると、本会議を通じて痛切に実感いたしました。本報告書をご覧いただきました皆様には、この場をお借りいたしまして、引き続きより一層のご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

本会議は、会議参加者とともに、運営陣も数多くの成長を実感できる結果となりました。このような機会を実現するにあたり、ご支援いただきました皆様、そして運営段階からともに会議と大会を作成してきた運営事務局の皆様、厚く御礼申し上げます。本会議の報告とさせていただきます。



## 模擬国連とは

模擬国連（Model United Nations）は、今から遡ること約90年、1923年にアメリカのハーバード大学にて開催された「模擬国際連盟（Model League of Nations）」にその原点があります。  
国際政治の仕組みを理解し、国際問題の解決策を考える過程を体験できることから、教育プログラムとしても高い評価を受け、現在では世界中の大学・高校において授業に採用されるほか、学生の課外活動としても楽しまれています。

日本における最初の模擬国連団体は、1983年、当時上智大学の教授を務めていた緒方貞子氏（元国連難民高等弁務官）を中心に組織されました。  
30年にわたる活動の結果、OBOGの人数は5000人に達し、外務省や国連機関、NGO、金融やITなど幅広い業界へ優秀な人材を輩出してきました。

### The 17th Kansai Model United Nations Conferences

## 模擬国連会議とその有用性

模擬国連会議への準備、そして会議への参加を通じた成長は、参加者にとって単なる会議における国際問題の理解に留まらず、社会に通用する能力開発の場になっています。

会議への参加者は、国際社会における問題を調査・学習し、その解決を模索・追求していくという行為を、事前調査、会議本番、レビューを通して積み重ねていきます。会議のためのリサーチや、会議本番の他者とのコミュニケーション等は、様々な能力の獲得を参加者に促します。

日本においても、求められる人材像が変化しつつあります。そのような中で、様々な能力を総合的に鍛えられる模擬国連は人材育成の面からも非常に有効な活動です。

### 1 事前準備

参加する会議と担当する国が決まると、模擬会議ごとに作られる「Background Guide」という解説書を参考にリサーチを行い、議題と担当国に関する理解をさらに深めます。その集めた情報をもとに、担当国の『国益』について考え、担当国の会議におけるスタンス（立場）を固め、議題に対する政策を考えていきます。

### 2 会議

事前に立案しておいた自国の政策をもとに演説（speech）や他国との交渉（negotiation）を繰り返し、会議の意思決定の下地となる決議案（Draft Resolution）を作成していきます。最終的には、担当国の国益と国際社会の両者にとって有益かつ問題解決に実効的な解決策・対策を盛り込んだ決議案を投票にかけ、決議（Resolution）として採択します。また会議の進行は勿論、演説や決議等においても多くの場合英語が用いられます。

### 3 レビュー

会議が終了すると、振り返り（レビュー）が行われます。会議目標の設定・会議行動は妥当であったかなどを振り返り、お互いに意見を出し合うことで交渉力や問題解決能力、政策立案能力などの向上を図ります。また、模擬会議でのロールプレイングを通じて理解した担当国の利益とその元にある文脈（歴史的構造、パワーポリティクス、内政との関わり）を全体で共有し、議題に関してより多角的な分析を行います。

政策立案能力  
問題分析能力

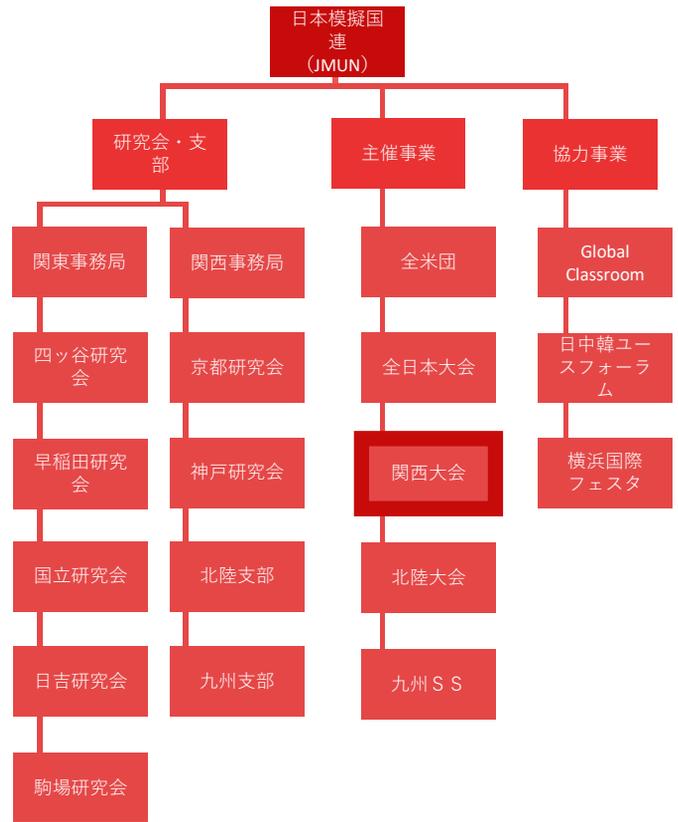
語学力  
戦略的思考力 プレゼン能力  
交渉能力

協調・相互理解  
多角的視野 論理的思考力

## 日本模擬国連組織図

1980年代、日本においては一部の学生や学者の間でしか知られていなかった模擬国連ですが、2017年現在では、その活動は全国に広がっています。関東には東京大学、早稲田大学、慶応大学、関西には京都大学や大阪大学を中心とした計7つの研究会があるほか、北陸や九州などにも支部が存在し、全国で700人以上の学生が日々模擬国連活動に取り組んでいます。

日本模擬国連（Japan Model United Nations：JMUN）は5つの事業を主催するほか、他団体とも協力して様々な事業の運営に携わっています。その中の1つが模擬国連会議関西大会です。関西大会は、関西の研究会に所属する優秀な学生達を中心に集う他、関東の研究会に所属する学生達も一同に集まります。関西大会は、日本模擬国連が主催する事業の内、西日本を代表する、大変規模の大きい大会となっております。



### The 17th Kansai Model United Nations Conferences

## 日本模擬国連の理念

日本模擬国連は4つの理念の下で活動しています。

1 次代を担う学生に対して国際理解の為の学習方法となる模擬国連活動の場を提供する

3 同じ関心を持つ会員同士の友好を深める

2 国際連合及び国際関係に関する研究と国際問題の正確な理解、さらにはその解決策の探求を促進する

4 豊かな国際感覚と社会性を有し、未来の国際社会に大いに貢献できる人材を育成・輩出する

# 運営者一覧

役職	氏名	所属	対外メールアドレス
運営事務局			kmunc17_info@kansai-mun.org
事務総長	奥山智司	同志社大学政策学部 3年	kmunc_sg@kansai-mun.org
研究統括	城友莉香	立命館大学文学部 3年	kmunc_dg@kansai-mun.org
研究統括補佐	辻郷孔凡	京都大学法学部 4年	kmunc_adg@kansai-mun.org
総務統括	西山加奈子	同志社大学政策学部 3年	kmunc_gm@kansai-mun.org
総務	玉井晃平	神戸大学文学部人文学科 3年	
会計	穂積瑞希	京都産業大学文化学部 3年	kmunc_fm@kansai-mun.org
広報・情報処理	玉置大祐	同志社大学グローバル地域文化学部 3年	kmunc_press@kansai-mun.org
広報	藤原明依	神戸市外国語大学外国語学部 2年	kmunc_press@kansai-mun.org
高校広報	佐伯壮一郎	大阪大学医学部医学科 2年	kmunc_hspr@kansai-mun.org
アドバイザー	長岡幸佑	同志社大学グローバル地域文化学部 4年	kmunc_hspr@kansai-mun.org
渉外	八木将行	同志社大学法学部 3年	kmunc_pr@kansai-mun.org
	埋橋光	同志社大学政策学部 2年	kmunc_pr@kansai-mun.org
	徳ひまわり	同志社大学法学部 2年	kmunc_pr@kansai-mun.org

大会ホームページURL : <http://www.kansai-mun.org/kmunc17/>

Twitter : <https://twitter.com/KMUNC>

Facebook : <https://www.facebook.com/KMUNC/>